第１章　都心部の位置づけと現行構想・計画

１　都心部の位置づけ

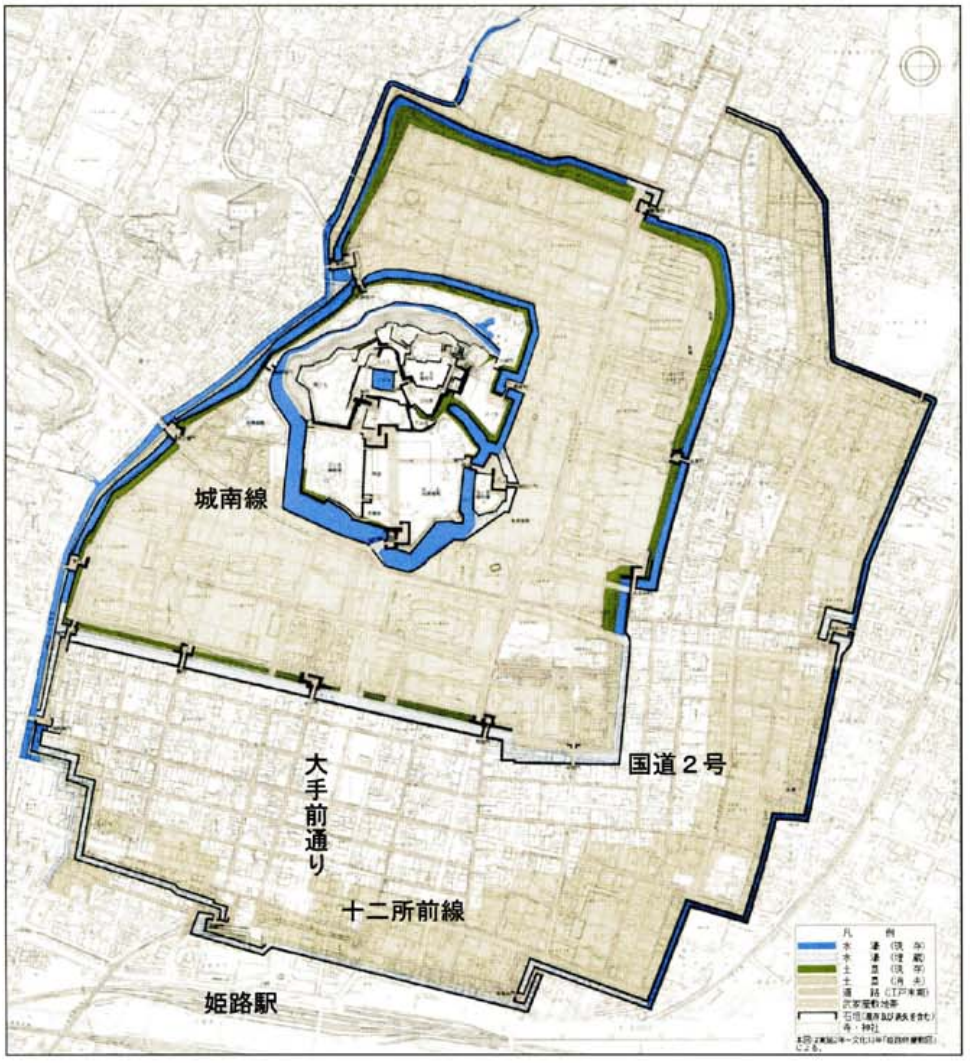
本市の都心部は、古くから山陽道と出雲・因幡、但馬の各街道を結ぶ交通の要衝として栄え、江戸時代はじめに姫路城の城下町が形成されてからは、播磨地域の政治・経済面での中心的な役割を担うようになりました。

明治22年（1889年）に旧城下町を中心に「姫路市」が誕生し、その後、鉄道等の整備により姫路駅周辺は商業・業務施設の一大集積地となりました。

不幸にも、都心部の大部分が戦災により焦土と化しましたが、戦災復興土地区画整理事業をはじめ、計画的な都市基盤整備が重点的に進められ、各種交通機関や商業・業務機能が集積する交流、流通の拠点に発展してきました。

最近では、姫路駅周辺地区などにおいて新しいまちづくりも進められています。

姫路城跡と現在の市街地との関係

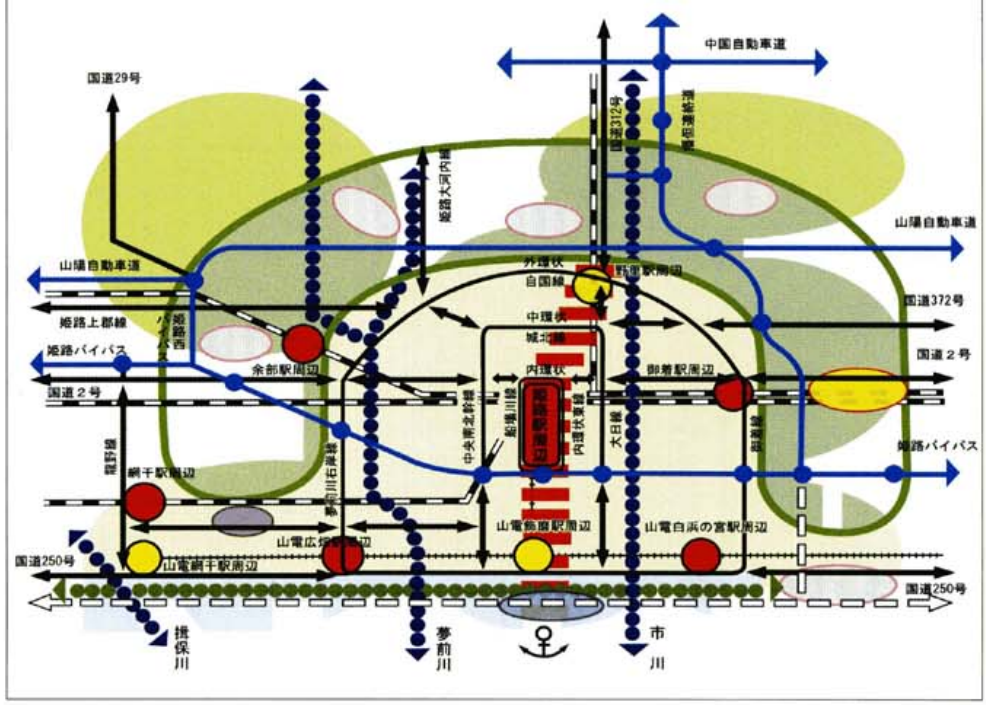


(1)　姫路市総合計画の位置づけ

本市が目指す総合的かつ計画的な都市づくりの基本理念、施策の大綱及び基本的施策を明らかにするため、平成 13 年度（2001 年度）から平成 24 年度（2012 年度）までの 12 年間を対象とする姫路市総合計画を策定しています。

この基本構想では、都市のフレームとして都市構造が示されており、野里駅周辺～姫路城～姫路駅～姫路港を結ぶラインを「都市軸」と位置づけ、姫路駅を囲む都心部を「主核」に、多核多重構造の充実を図ることとしています。

姫路市の都市構造



さらに基本計画では、姫路駅を中心とする商業・業務核（主核）の整備方針を次のとおり定めています。

- 都心部にふさわしい高度な土地利用の促進と姫路城周辺及び大手前通りを緑豊かな潤いある交流拠点として整備を図る。
- 本市の交流や流通、ビジネスの拠点のみならず、播磨地域の社会、経済活動の核として、駅北地区は主に商業核、駅南地区は主に業務核として、一体となった商業業務地形成を図る。
- 大手前通り、中濠通り（国道線）、駅南大路、運河公園などで魅力ある都市景観の形成を図る。

(2)　検討区域の設定

本構想の対象区域の設定に先立ち、都心部の現況把握や現行の構想・計画を整理し、留意点を抽出するための検討区域を設定します。

この検討区域は、姫路市総合計画の位置づけを踏まえ、都市機能の集積状況や現行の構想・計画を考慮して、「大手前通りを中心に概ね直径 2.5km の範囲」を設定します。

都心部まちづくり構想検討区域